

2025 年度 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト¹で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート実施報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたい。本アンケートの結果を踏まえて、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

本会計大学院は2023年度に会計大学院評価機構による認証評価を受け、すべての基準に適合しているという評価を受けた。2023年度からは会計大学院 学部・大学院一貫教育プログラム（高度会計専門家養成）を開始し、体制の改善を行っている。新しいカリキュラム体系の確認と改善のために今回のアンケートの結果を活かしたいと考えている。

2025 年 10 月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

「会計大学院の授業に関するアンケート」(資料 1)

- ・ 前期講義実施期間：2025 年 7 月 4 日（金）～ 2025 年 7 月 29 日（火）
- ・ 連続講義実施期間：2025 年 8 月 7 日（木）～ 2025 年 9 月 5 日（金）

上記期間中に、対象者への一斉メールと担当教員による周知を通じて Google Form の URL を配布してアンケートを実施した。

「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が 5 名以上のプロジェクト調査・研究以外の全ての科目を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。アンケートの回答は無記名とし、1 学生につき各科目において 1 回限り回答できるよう設定している。

本報告書では、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今学期に開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。2022 年度からはアンケート結果に対する担当教員からのリプライを収集し、学内向けに公開している。また、2022 年度前期には入学前の出身を示す設問、2022 年度後期からは主な授業方法を示す設問を追加し、2023 年度後期からは予習、復習、宿題に割く時間をそれぞれ回答させる設問を時間外学習に割く時間に関する設問にまとめるなど、アンケートの改善を図っている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

3.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上のプロジェクト調査・研究以外の全ての開講科目である24科目について実施された。今学期におけるアンケート実施科目と、過去4年分の授業アンケートの回答率をまとめると表1のようになる。今回のアンケートでは、述べ履修者数493名に対して267名から回答を得た。アンケートの回答率は54.16%である。他専攻、他部局の動向を考慮すると、回答率は一定の水準を確保しているものと考えられる。

	履修者数合計	回答数合計	回答率
2021 後期	443	234	52.82%
2022 前期	479	224	46.76%
2022 後期	465	193	41.51%
2023 前期	576	265	46.01%
2023 後期	433	181	41.80%
2024 前期	508	289	56.89%
2024 後期	504	237	47.02%
2025 前期	493	267	54.16%
今回の授業アンケートの対象科目名			
財務会計1、財務会計3、簿記1、簿記3、IFRS2、 管理会計2、原価計算1、事例研究（管理会計）、 監査1、監査3、監査計画の編成法2、経営管理、 コーポレートファイナンス2、情報セキュリティ、 統計学、計量経済分析1、金融行政I、企業法2、 法人税法1、所得税法、会計職業倫理、ビジネス倫理、 ビジネス・コミュニケーション、 ビジネス・プレゼンテーション			

表1：アンケート実施科目と回答率の推移

3.2. アンケートに関する基本統計量

表 2A は、設問 1、15、16 を除いて各設問の選択肢に好ましい回答ほど値が大きくなるような数値を設定したうえで、各設問の回答の分布と基本統計量（平均値、中央値、最頻値、標準偏差）を示している。なお、具体的なアンケートの内容については巻末資料 2 を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前	受講方法
6	85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	131	216	15	121	169	209	203	186	193	192	200	131	183	82	48	220
4	7	41	25	100	71	37	45	57	55	48	47	45	56	-	95	47
3	13	6	45	37	17	13	12	13	14	17	11	55	21	158	19	0
2	12	4	121	5	5	4	3	6	0	7	4	26	3	-	88	0
1	14	0	61	4	5	4	4	5	5	3	5	10	4	27	17	-
0	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267
平均値	4.76	4.76	2.30	4.23	4.48	4.66	4.65	4.55	4.61	4.57	4.62	3.98	4.54	3.41	3.26	4.82
中央値	5	5	2	4	5	5	5	5	5	5	5	4	5	3	4	5
最頻値	5	5	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4	5
標準偏差	1.48	0.56	1.09	0.86	0.84	0.77	0.75	0.84	0.75	0.82	0.80	1.19	0.81	1.21	1.26	0.38

表 2A：アンケートの基本統計量

表 2A にあるとおり、設問 4（理解）から設問 13（キャリア）にかけての授業の理解度や評価に関する設問では、平均値が、設問 12（試験対策）において 3.98 であることを除くと 4 以上となっている。また、中央値は設問 4（理解）と設問 12（試験対策）の評価が 4 であることを除くと最高評価の 5 であり、最頻値はすべてが最高評価の 5 である。この傾向は、過去数年のアンケート結果と大きな違いはない

設問 3（時間外学習）から、学生が授業時間外学習にかかる時間は若干少ない傾向がうかがえるかもしれない。設問 3（時間外学習）において半数以上の学生が 1 と 2（1 は 1 時間未満、2 は 1-2 時間を意味する）を選択しており、授業時間外学習が毎回 2 時間以下となる傾向がみられる。しかしその一方で、30%以上の学生は 3 以上（3 は 2-3 時間、4 は 3-4 時間、5 は 4 時間以上を意味する）を選択しており、毎回 2 時間以上の時間外学習を行っていることも確認できる。設問 12（試験対策）からわかるとおり、本学の講義は資格試験等に関連する内容も含むため、学生が別途取り組んでいる試験対策の学習時間と授業時間外学習にかかる時間には重複が多分にあると思われる。そのため、設問 3（時間外学習）の結果のみもとづいて、学生が授業時間外学習にかかる時間が不足しているとは一概に解釈しにくいと思われる。とはいえ、会計大学院が提供する講義内容は試験対策に限らないことから、その理解にはある程度の時間外学習時間が必要と考えられる。過年度と同様に、この傾向については継続的に注意を払うことにする。

設問 16（受講方法）にみられるように、講義方法は対面（5 は対面を意味する）が主流となっており、オンライン（4 はオンデマンド、3 はリアルタイムを意味する）が併用されている状態である。

対面

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外 学習	理解	難易 度	教員 準備	ブレ ゼン	教材	評価 方法	シラ バス	教員 評価	試験 対策	キャ リア	資格	入学 前	受講 方法
6	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	108	174	14	96	136	170	162	147	155	152	159	98	149	71	44	220
4	6	36	17	88	60	31	40	52	47	42	41	41	47	-	81	0
3	10	6	36	29	14	11	11	10	13	16	11	48	17	123	15	0
2	11	4	98	3	5	4	3	6	0	7	4	23	3	-	64	0
1	14	0	55	4	5	4	4	5	5	3	5	10	4	26	16	-
0	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220
平均値	4.72	4.73	2.26	4.22	4.44	4.63	4.60	4.50	4.58	4.51	4.57	3.88	4.52	3.41	3.33	5.00

オンデマンド

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	時間外 学習	理解	難易 度	教員 準備	ブレ ゼン	教材	評価 方法	シラ バス	教員 評価	試験 対策	キャ リア	資格	入学 前	受講 方法
6	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	23	42	1	25	33	39	41	39	38	40	41	33	34	11	4	0
4	1	5	8	12	11	6	5	5	8	6	6	4	9	-	14	47
3	3	0	9	8	3	2	1	3	1	1	0	7	4	35	4	0
2	1	0	23	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	-	24	0
1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	-
0	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47
平均値	4.94	4.89	2.47	4.28	4.64	4.79	4.85	4.77	4.79	4.83	4.87	4.43	4.64	3.43	2.91	4.00

表 2B：受講方法ごとの回答結果とその平均値

講義の開講形式（対面、オンデマンド、リアルタイム）がアンケート結果に及ぼす影響があるかどうかを確認するために、表 2B では設問 16（受講方法）の回答ごとに回答を集計し、その平均値を掲載している。対面とオンデマンドの表を比較するといずれも差は小さいため、どの授業方法を採用したとしても授業評価は大きく変わらないといえる。そのため、授業方法が学習時間や授業評価に及ぼす影響は軽微であることが伺える。今学期においてオンラインのリアルタイムでの講義は開講されなかった。

3.3. 各設問間の相関

設問間の相関関係をみるために、表 3 を作成した。なお、設問 1 は回答者属性、設問 15 は入学前の所属、設問 16 は受講方法であり、相関係数の意味が乏しいため除外している。設問 14 の資格については、取得の難易度が高いと一般に考えられる資格に大きい数値を割り当てて定量化している。また、 ± 0.50 以上の相関係数については太字（色付き）にしている。

質問	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	出席	時間外学習	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
2 出席	1.00												
3 時間外学習	0.06	1.00											
4 理解	0.13	-0.09	1.00										
5 難易度	0.16	0.03	0.33	1.00									
6 教員準備	0.20	0.07	0.27	0.54	1.00								
7 プレゼン	0.20	0.02	0.37	0.56	0.80	1.00							
8 教材	0.12	0.00	0.33	0.55	0.61	0.67	1.00						
9 評価方法	0.15	0.01	0.30	0.52	0.61	0.59	0.58	1.00					
10 シラバス	0.10	-0.09	0.41	0.54	0.50	0.60	0.73	0.59	1.00				
11 教員評価	0.20	0.03	0.27	0.59	0.84	0.85	0.67	0.63	0.62	1.00			
12 試験対策	0.07	0.13	0.30	0.32	0.31	0.30	0.28	0.25	0.26	0.30	1.00		
13 キャリア	0.11	0.06	0.28	0.60	0.54	0.57	0.50	0.48	0.56	0.63	0.42	1.00	
14 資格	0.04	-0.21	0.00	0.10	-0.03	-0.06	-0.04	-0.05	-0.05	-0.06	-0.04	0.06	1.00

表 3：設問間の相関関係

設問は、概ね、設問 3 の学習時間に関する項目、設問 4 から設問 11 の授業評価に関する項目、設問 12 と設問 13 の学生の将来と授業の関連性に関する項目に分けることができる。

まず、設問 3（授業時間外の学習）について、設問 4 から設問 11 の授業評価に関する項目及び設問 12 と設問 13 の学生の将来と授業の関連性に関する項目との相関関係がないことが示されている。

次に、設問 4 から設問 11 の授業評価に関する項目について、これまでのアンケートの結果と同様に、設問間の相関係数は比較的大きな正の値であることが示されている。とくに、設問 5 から設問 11 の間に比較的に強い正の相関関係がみられる。これは、設問 11 の教員と授業に対する学生の総合的な評価が、設問 5 から設問 10 の教員の授業への用意と実施の適切さに関する学生の評価に影響を強く受けることを示唆していると思われる。また、相関は弱くなるが、設問 4 の授業の理解度に関する学生の評価についても同様の影響がみられる。

続いて、設問 12 と設問 13 の学生の将来と授業の関連性に関する項目について、どちらの設問も設問 4 から設問 11 の授業評価に関する項目との間に正の相関があることが示されている。そして、設問 12 よりも設問 13 の方が、相関係数の値が高くなっている。これは、講義を将来のキャリアに役立つと学生が評価する傾向が高いほど、設問 4 から設問 11 の授業評価に関する項目の学生による評価も高くなる傾向があることを示しているように思われる。本学では、学術研究の動向や会計実務に基づく知識、倫理や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的な視点で学生の将来に

有用となる講義を開講している。そのような内容を含む講義の重要性が学生の間で高まっている傾向と読み取れるかもしれない。

また、設問 14 については、他の設問との相関が特に観察されていない。この結果は、全体的な授業評価が良好であることを踏まえると、保有している資格にかかわらず適切な授業を実施できていると判断できる。

これらの傾向はおおむね、これまでのアンケートの結果と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院 WEB サイトを参照されたい²。

3.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、考慮すべき意見については改善につなげるよう依頼している。

また、担当科目の授業アンケートの結果に対するリプライを各教員に依頼し、その結果をまとめて学生に開示している。こうした授業アンケートに関する学生と教員間のコミュニケーションを通じて、授業アンケートの結果がさらに授業に活かされることを期待している。

4. 結び

2025 年度前期における「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果を踏まえると、本会計大学院の授業は、総合して良好な評価を得たと考えられる。

本会計大学院が抱える課題については、学生の学習時間の確保である。近年では徐々に時間外学習の時間が確保される傾向にあるものの、各科目の毎回の講義における時間外学習時間は、それぞれ 2 時間以下と回答している学生が比較的多い。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫する必要があると考える。

最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。

² <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

資料 1：2025 年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果を報告書として公表致します。東北大 ID が必要となります。

授業担当者には誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

回答者属性

番号	質問	回答	
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(6)公認会計士コース(2 年) (5)公認会計士コース(1 年) (4)会計リサーチコース (3)ビジネスアカウンティングコース	(2)経済経営学専攻 (1)経済学部 (0)その他

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？ （おおよその出席率で回答して下さい。）	(5)90%以上 (4)89-70% (3)69-50% (2)49-20% (1)20%未満
3	この授業に係る授業時間外の学習に平均して毎回、どのくらいの時間をかけましたか？（予習、復習、宿題、課題等をすべて合計して回答してください）	(5)4 時間以上 (4)3-4 時間 (3)2-3 時間 (2)1-2 時間 (1)1 時間未満
4	この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5)理解できた (4) (3) (2) (1)理解できなかった
5	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
6	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5)十分だった (4) (3) (2) (1)不十分だった
7	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5)十分だった (4) (3) (2) (1)不十分だった

番号	質問	回答
8	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
9	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5)適切である (4) (3) (2) (1)不適切である
10	この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか？	(5)役に立った (4) (3) (2) (1)役に立たなかった
11	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5)評価できる (4) (3) (2) (1)評価できない
12	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5)役立つ (4) (3) (2) (1)役に立たない
13	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5)役立つ (4) (3) (2) (1)役に立たない
14	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記 1 級 (3)日商簿記 2 級 (1) 上記について無し
15	会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。	(5)東北大学経済学部 to 所属 (4) 東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属 (3) 社会人として勤務 (2)留学生 (1)その他
16	この授業の主な受講方法を選択してください。	(5)対面 (4)オンデマンド (3)リアルタイム (2)その他

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

※今年度のアンケートは Google Form で実施しています。表示形式は異なりますが、設問・選択肢は記載の通りです。

資料2：2025年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	85	31.84%
	公認会計士コース(1年)	131	49.06%
	会計リサーチコース	7	2.62%
	ビジネスアカウンティングコース	13	4.87%
	経済経営学専攻	12	4.49%
	経済学部	14	5.24%
	その他	5	1.87%
	合計	267	100.00%
設問2 この講義にどのくらい参加しましたか.	90%以上	216	80.90%
	89-70%	41	15.36%
	69-50%	6	2.25%
	49-20%	4	1.50%
	20%未満	0	0.00%
	合計	267	100.00%
設問3 この講義の時間外学習に平均して毎回、どのくらいの時間をかけましたか.	4時間以上	15	5.62%
	3-4時間	25	9.36%
	2-3時間	45	16.85%
	1-2時間	121	45.32%
	1時間未満	61	22.85%
	合計	267	100.00%
設問4 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか.	5 理解できた	121	45.32%
	4	100	37.45%
	3	37	13.86%
	2	5	1.87%
	1 理解できなかった	4	1.50%
	合計	267	100.00%
設問5 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか.	5 適切である	169	63.30%
	4	71	26.59%
	3	17	6.37%
	2	5	1.87%
	1 不適切である	5	1.87%
	合計	267	100.00%
設問6 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか.	5 十分だった	209	78.28%
	4	37	13.86%
	3	13	4.87%
	2	4	1.50%
	1 不十分だった	4	1.50%
	合計	267	100.00%
設問7 教員の説明や声量など、教室でのプレゼンテーションは良好でしたか.	5 十分だった	203	76.03%
	4	45	16.85%
	3	12	4.49%
	2	3	1.12%
	1 不十分だった	4	1.50%
	合計	267	100.00%
設問8 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか.	5 適切である	186	69.66%
	4	57	21.35%
	3	13	4.87%
	2	6	2.25%
	1 不適切である	5	1.87%
	合計	267	100.00%

設問9 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか.	5 適切である	193	72.28%
	4	55	20.60%
	3	14	5.24%
	2	0	0.00%
	1 不適切である	5	1.87%
	合計	267	100.00%
設問10 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか.	5 役に立った	192	71.91%
	4	48	17.98%
	3	17	6.37%
	2	7	2.62%
	1 役に立たなかった	3	1.12%
	合計	267	100.00%
設問11 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか.	5 評価できる	200	74.91%
	4	47	17.60%
	3	11	4.12%
	2	4	1.50%
	1 評価できない	5	1.87%
	合計	267	100.00%
設問12 この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか.	5 役に立った	131	49.06%
	4	45	16.85%
	3	55	20.60%
	2	26	9.74%
	1 役に立たなかった	10	3.75%
	合計	267	100.00%
設問13 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか.	5 役に立った	183	68.54%
	4	56	20.97%
	3	21	7.87%
	2	3	1.12%
	1 役に立たなかった	4	1.50%
	合計	267	100.00%
設問14 既に合格している資格試験等を選んで下さい.	税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級	82	30.71%
	日商簿記2級	158	59.18%
	上記について無し	27	10.11%
	合計	267	100.00%
設問15 会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください.	東北大学経済学部へ所属	48	17.98%
	東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属	95	35.58%
	社会人として勤務	19	7.12%
	留学生	88	32.96%
	その他	17	6.37%
	合計	267	100.00%
設問16 この授業の主な受講方法を選択してください.	対面	220	82.40%
	オンデマンド	47	17.60%
	リアルタイム	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	267	100.00%

「注」 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2025 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長
委員

嘉本 慎介
松田 康弘

会計大学院アンケート実施報告書 2025 年度前期

2025 年 10 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会